

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174700898		
法人名	株式会社 アルムシステム		
事業所名	グループホーム東めむろふれあい館1・2 (東めむろふれあい館1)		
所在地	河西郡芽室町東めむろ3条北1丁目8-4		
自己評価作成日	平成 28 年11月23日	評価結果市町村受理日	平成29年3月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0174700898-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>個人個人の個性を尊重しながら、一緒に笑い・一緒に楽しみ・そして喧嘩し、又は涙し、一日を過ごして頂いています。美味しいものを食べ、又季節を感じて頂ける工夫を日々考え、変化のある毎日を心がけています。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内
訪問調査日	平成28年12月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は自然環境に恵まれた閑静な住宅地に位置し、隣接して母体法人が運営するシニア対応マンション、シルバー対応下宿があり、これら福祉施設が大きなコミュニティを形成している。法人は多くの福祉施設等を運営し、研修、災害対策などで事業所と連携し事例を共有しながら質の高いケアに努めている。又、法人は各種委員会(身体拘束廃止、虐待防止、事故等)を設置し、日頃から職員研修(内部、外部)を行い職員の資質向上と事故防止に常に心がけ、職員は明るく、温かみのある家庭的な雰囲気作り心がけ、利用者の個性を尊重しながら「その人らしさ」を大切にしたい生活が出来るよう支援している。町内会に加入し、地域の一員として利用者は地域の花見、祭りに参加したり、シニアマンション、シルバー下宿と合同で行う事業所の夏祭りや防災訓練に地域住民が参加したりと地域に密着した事業所である。利用者は事業所横の菜園で職員と共に各種野菜の手入れや、収穫を楽しんだり季節を感じながら穏やかに過ごしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念により、職員全体で地域密着サービスを目指して取り組んでいる。又、事業所に見合った、独自の理念を職員同士、話し合い(共有)会議でも周知し、理念に基づくケアを実践している。	地域密着型サービスの基本に沿って職員と共に事業所独自の理念を作り、廊下壁面に掲げて、理念に基づいたケアを実践している。毎月の職員会議には理念を確認して職員への理解浸透を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	事業所では、町内会に加入し、町内行事に参加し、交流を図っている。毎年、ホームでの夏祭には町内会の皆様、ご家族様のご協力も頂いて参加してもらっている。(お花見、新年会、総会、夏祭り)	地域との連携を密にする目的で隣接する複数の町内会に加入している。散歩の時には住民と挨拶を交わしている。地域の花見、お祭を見に行き、事業所の夏まつりには地域住民が来訪して相互の交流が出来ている。	畑の野菜づくり「土おこしから、種まき、草取り、収穫」に至る「工程毎」に地域住民や家族を誘って、家族や地域との更なる交流づくりを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所が行う祭りには、町内会員を招待参加をし、交流を図っている。町内会の行事には、利用者様と一緒に参加し交流を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、サービス提供状況の報告を行い参加された方の要望、意見などは、ユニット会議にて話し合い向上へと繋げている。また、民生委員や地域包括の方と、芽室町の現状や事業所の情報を共有し意見交換の場をもっている。	芽室町、地域包括支援センター、民生委員、町内会、家族などが参加し年6回開催。事故報告や活動報告、防災訓練などを話し合い意見や助言を得てサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	自己評価、外部評価を提出し又運営上の質疑等は積極的に相談し、ケア向上に努めている。運営推進会議等を活用し、民生委員や市担当との意見交換や情報交換を求めたりしている。又月1の芽室町ケアカフェに参加し、意見交換や情報交換をしている。	芽室町との連携は密接である。特に生活保護受給利用者がいることから定期的な役場訪問をしている。それに関連して他の部門にも訪問して指導助言を受けてサービス向上に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で身体拘束廃止委員会を設置し、委員会では全職員よりアンケート調査を実施。社内研修、外部研修の参加で知能を高め、研修内容は職員と共有し、拘束廃止に、意見交換を行う場を設けている。また、夜間のみ玄関は施錠し、日中は自由に出入りできる環境にしている。	法人が身体拘束廃止委員会を設置して2ヶ月毎に定期的な委員会活動があり研修会も年間予定に従って実施している。職員は研修記録報告や職員会議を通じて共有を図っている。拘束が異常であるという理解がされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で高齢者虐待防止検証委員会を設置し、委員会で検討し、社内研修にて意見交換を行っている。委員会は定期的開催し、アンケート調査を実施。外部研修で知識を高め、全職員虐待防止への意識の強化に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、制度上困難な事情が多く、又良好な家族関係の利用者の為、活用されていない。契約時には、成年後見人制度について説明を加えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、事前に利用者及び家族に閲覧していただき、契約時に説明し質問等を聞き確認してから契約を行なう。解約時には、次の生活場所の相談支援を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を定めている。又ご意見箱を設置し意見を受けている。現状では、ご意見箱の利用がないため、面談、面会時には、意見を求めコミュニケーションを強化し意見交換のしやすい環境を目指している。意見があった場合はスタッフ全員で会議を持ち運営に反映している。	利用者本人とは、入浴時、散歩時の何気ない一言が貴重な情報として活かされている。前回のステップアップ課題、家族への情報提供の取り組み成果が見られて従来より一歩ふれあい反応が増加した。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は組織体制により上層部に上げていく体制で反映している。	管理者は日頃から職員の気付き提案を重視して毎月の職員会議を経て実行に移している。夜勤と日勤の引き継ぎを重視して毎度繰り返し確認している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社の就業規則に定めている。又職員の評価を行い実績、勤務状況を把握し反映している。代表者は、給料水準の見直しを実施、管理者は職員との定期的面談で目標ややりがいの有無を常に確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社全体で職員研修を実施、全員が研修を受けられる機会を確保している。外部研修にも積極的に参加しケアの向上に努めている。毎月の会議を通じて職員研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	十勝グループホーム協議会に加入し、同業者とのネットワークづくり、又相互評価事業により評価を受けサービスのケア向上に努めている。ケアカフェの参加で、事業所と関連のある他職種との交流の場を持ち、サービスの質の向上に反映させる努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学や入居前に面談の時間を設け各種の説明、御本人やご家族の要望等を聞き、満足し希望された時点で入居をして頂くよう努めている。面談時の情報は、スタッフに周知し適切なケアが出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に必ず本人や家族に今現在の不安や今後の不安等、要望の把握に努めている。家族に対しては、利用料、サービス内容を説明し、要望等に対して出来るだけ満足、信頼していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始前に本人及び家族の生活暦、主治医、各関係機関の生活等を把握し、アセスメントにより支援するサービス内容を見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活ペースに添って、自身の出来ること、得意な事を活かし、支援が必要な事を把握、その人らしい安心した生活をして頂ける事を大切にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族がこれまで抱えていた介護に対する思いを受け止め、本人と家族がこれからも良好な関係を築いていけるよう支援している。また月1回のお便りで利用者の現状報告し、面会時には、家族の思いや希望を聞きケアに反映出来るようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人、知人については、出来るだけ疎遠にならないよう支援に努めている。気軽にホームに来て頂ける様、雰囲気づくりを大切に、外出時にあった知人とゆっくり話せるよう機会を設けている。	定期的来訪の理美容師と馴染になっている。老人会で友達になった方との交流を大事にして職員は送迎に同行して関係を継続するよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の良好な関係を築くため、リビングソファの配置に工夫し環境管理に努めている。部屋の閉じこもりを少なくし、本人の負担を考えながら、出来るだけリビングでの時間作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も面会や相談があれば、情報を提供して支援している。入院の場合は面会等を通じて相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の望まれる事や思い等を日常のかかわりを通じて把握に努め、困難な場合は、ケース会議や家族の意見も聞き、対処している。	入浴時や散歩の関わりの中で希望や意向を把握しその実現に努めている。表出困難な場合は、ケース記録や家族から意見を聞いて本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のアセスメント等で情報を収集したり、生活の環境が出来るだけ変わらないよう、なじみのある食器や家具を使用し、その人らしい生活を送れるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の記録用紙を使用し、ペンで色分けし、一日の過ごし方を把握した上で毎日の心身状況をも把握する。有する能力等に変化があれば、会議にて討議している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスでスタッフ、本人、家族からの意見を取り入れた話し合いを行っている。又、特別変化があれば、その都度モニタリング、カンファレンスを行ない、現状に即したケアを行ない、評価している。安定時は、6ヶ月をめぐりに特変時や状況の変化時は、期間を問わず随時、話し合いケアプランに反映させている。	6ヶ月毎の定期的な見直しの他に担当者から見て体調に変化が見られる時には随時ホーム長へ報告をし、医師の助言の下で、ケアマネージャー、看護師との協議を経てケア会議にて見直しを決めて家族へ報告し現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々に生活の様子や体調の変化、気づいた事は、一目でわかるよう記入、特記事項は、専用の欄に記入し職員同士の情報を共有し介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の要望を出来る限り叶えられるような体制作りをし家族との連絡も密に行ない、柔軟に対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所に買物、散歩等地域の皆様に理解をして頂ける様、町内会に加入し、町内行事の参加、ホーム主催の夏祭りや防災訓練への参加の案内等で地域住民の理解を得られるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を基本とし通院時は、職員同行、家族対応で行っている。月2回の往診もあり、細かな事でも相談できるよう努めている。	従来からのかかりつけ医を大事にしている。家族の通院同行が原則だが日々利用者の体調変化を把握している職員が同行している。月2回医師が往診してくれる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調の変化を把握し、看護師に情報を提供し相談を受けている。又、看護師は、医療機関への情報を提供し、適切なアドバイスを受けて、利用者の体調管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者との情報交換、訪問面談を行ない、体制を整え、早期退院に向けての取り組みを行っている。退院に向けた病状説明には、職員も同席している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、本人、ご家族と話し合い説明をし、お互いの方針を共有し、支援に取り組むよう努めている。契約時の方針の書面を提示、事業所で行えることの理解を求めている。職員研修もしている。	重度化への対応、指針は入居時に説明し同意を得ている。重度化した場合には指針に基づき医師等の意見をもとに状況を家族に説明して最良の対応を選択できるように支援している。事業所では研修を定期的に行うなど職員の体制づくりに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時及び事故発生時の応急手当等については、社内研修等において関係機関による実践訓練の実施を随時行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火、防災対策要綱を設置し法人全体で、対策を行っている。各施設で年2回の防火防災訓練を消防署の協力により実践している。	年2回消防署の指導を得て地域も巻き込んで防災訓練に熱心で有るが今年8月の台風による災害停電を体験した。これからは想定外の災害と言言葉を使えない事を体験した。	災害発生を予測した備蓄を期待する。 ①飲料水の確保 ②厳寒期に向けてポータブルストーブ ③停電により携帯電話充電の為に簡易な手巻き式発電機 ④簡易トイレ
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格やプライドを傷つけない接し方をし、その人が理解できる声掛けを行っている。	日頃から接遇や言葉遣いを重視して、個人を尊重する事を第一とし利用者目線に合わせた姿勢や声掛けに心がけている。個人情報に関する書類の保管や扱いに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が決める力や希望等をその都度聞き出し、本人の思いには、傾聴し、解決できる事は、一緒に考え助言する。本人の思いなど家族にも伝え共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の一日の流れを優先するのではなく、希望に添った、一人ひとりのペースを日常の会話の中から聞き出し、一人ひとりの生活スタイルに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容で本人の希望に応じた髪型にしてもらい、なじみの理美容のある方には、利用して頂いている。毎朝下着は交換、清潔を保持、洋服を選ぶ際には、本人に天候、四季を伝え一緒に選んでいる。化粧品を用意することもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回は、利用者が食べたい物を聞き出し、一緒に買物へ行っている。食欲が増すような盛り付けの工夫。職員も一緒に食卓を囲み、談話しながらの食事。野菜の下処理や配膳、食器の片付けを手伝って頂いている。	本部から食材が配送されるが週1回事業所独自の献立の日がある。日頃から入浴、散歩の時に何気ない会話から意向に添える様に務めている。年間計画に基づいて外食の日があるので利用者は楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事が一目でわかるようにバイタル表に記録している。誤嚥の可能性がある方には、お粥食、ミキサー食、刻み食、水分にはトロミやゼリーにし提供。その方に応じた食事形態をとっている。食事量も個人に合わせ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛け個人に合わせた口腔ケアを見守りや介助を行っている。訪問歯科往診も利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、時間を見計らい個々に応じた誘導を行っている。状況に応じてパットの種類、リハビリの着用を使い分け支援を行っている。常にパットを使用している方には、起床時、夕方陰部洗浄を行ない、細菌による感染を繰り返さないよう努めている。	利用者個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導をしている。概ね失敗は無いが失敗があっても自然体でスムーズな処理をしている。自立支援が大きな目標なので可能の限り布パンツ使用を目指している。入居時より改善しているケースが多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事については出来るだけ食物繊維の多い食材に配慮している。又おやつ時、ヨーグルトや乳製品を提供。腹部マッサージや個々の身体に応じ運動を促がし健康状態を保つよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日を決めず、個々の状態に応じていつでも入れる環境を作っている。拒否がある方には時間をずらして声掛けを行ない、気分が乗った時に気持ちよく入って頂いている。入浴中は、お話と一緒に歌ったりしている。	入浴の日を定めないで毎日入浴をしている。週2回は確保できている。嫌がる時には時間をずらして職員も変えて再度誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない時には、無理に休むのではなく、その方に応じた就寝時間に合わせている。又夜遅かった方には、起床を遅らせるなど配慮している。日によって室温や寝具の調整を行ない、熟睡できるように心がけている。昼寝など休みたい時には、休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用している薬が分かるよう一覧表を作成し、薬の種類を把握している。処方内容の変更時には、業務日誌に特記として記入。変更後の様子観察を徹底している。時には、薬剤師に相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野を引き出し、刺繍や編み物が好きな方には、用具を揃え出来上がった物を一緒に喜び、使用することで感謝の気持ちを伝えている。体を動かすのが好きな方には、掃除機掛け、床拭き、おしぼりたみ食器拭き、暖かい日には、散歩へ行くなど行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日には、声掛け促がし、本人希望より散歩している。欲しい物があれば、本人と共に買物に行ける様支援している。毎月行事を計画し自社バスなどで遠出や外食、季節を感じて頂ける様花見や紅葉狩り等企画、通院時等、帰り寄り道したり外食等している。お盆や正月には、家族の協力により、外食、外泊など支援している。	年間外出予定に従って出かけたり、個別に通院時に寄り道したり、買い物等に出かけている。天候の良い日には事業所の畑を眺めたり散歩するなど、努めて外に出る機会を多くしている。ばんば競馬の好きな利用者をときどき帯広競馬場へ同行支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は、ご家族相談のうえホームが管理しているが、本人買物希望時や通院時、嗜好品購入時に金銭の不安がないように説明や声掛け、購入時の支援をしている。金銭の管理についても不安がないよう本人への所持金の残高報告なども工夫している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	身内や友人など本人の希望時にはいつでも自由に連絡がとれるよう支援している。自身の携帯電話を持っている利用者様もあり、家族との会話による関りなど支援している。字が書ける利用者様には、家族への手紙や年賀状など文章による関りも支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先や室内の共用スペースの壁には、四季折々の提示物を貼り、季節を感じるよう工夫している。観葉植物や熱帯魚を置くことでリラックスできる共用スペースを提供している。エアコンや加湿器、空気清浄機などもあり快適な室内環境で過ごせるよう努めている。夏には、デッキにベンチを置き日向ぼっこもできる。長い廊下で運動もでき、ゆったりとしたソファで落ち着いてテレビを見れるようクッションやひざ掛けも用意している。	壁にクリスマスや節分等の季節を感じれる掲示物を貼って話題にしている。居間の横にあるデッキにプランターを置き花を育てて季節を感じている。居室毎に加湿器を設置している。長い廊下や広い居間が快適である。事務室や調理室から利用者の動向が観察し易い配置になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、ソファを3つ設置、テレビも2台あり、仲良く会話もできれば、一人でゆっくりとできるようにも工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年本人が使い慣れ親しんだ家具や思い出の品など持ってきて頂き、自宅で過ごす様な環境作りをしている。本人の希望を十分に取り入れ本人の満足いく居室作りを支援している。	居室は全室南面にあり明るい。自宅で永年使い親しんだ日用品や小物、家具を持ち込み、家族の写真や孫の作品等を貼って自宅の延長感があり、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室前には、表札があり混乱しないよう工夫している。居室内での起上がり時や歩行時の転倒防止など個人に応じた手摺りを設置し支援している。目付なども混乱しないよう判りやすい位置に設置している。歩行器が滑りすぎないよう足の裏に滑り止め貼るなど対応。散歩時の転倒防止、疲労軽減にウォーキングストックを使用。		